



新セールの完成

三月一六日、昨夜からの雨が止みきららず、ベンディングができるか微妙な日となりました。結局この日は午前には石ずりをお願いし、午後フォアローヤルとアップバーゲルンをつけたところで雨のため中止となりました。冷たい雨の中、石とホースを持っての作業、お疲れさまでした。おかげでハンドレールはきれいになりました。

翌月十七日、肌寒かったものの天気は回復し、朝から予定通り実施することができました。フォア、ミズン、メインと順々にセールを取り付けられ、最後にポランティアの皆さんの手でコースが取り付けられました。ご協力いただきましたポランティアの皆さんありがとうございます。

ポランティアの集いの二案内

海王丸パークにも花の香りがあふれ、春らしくなってきました。穏やかな日も多くなり、何となくそわそわとしてきた頃ですが、皆様いかがお過ごしですか。

さて、恒例のポランティアの集いを左記のとおり開催いたします。会場はホテルニューオータニ高岡です。お間違えないようお願いいたします。

四月二十七日から総帆展帆が始まりますが、今年度もポランティアの意気を大いに盛り上げ、活気あるものにしたと考えています。新メンバーの紹介も予定しています。ご多忙中とは思いますが、多数のご出席をお待ちしております。

日時 四月十九日(土)
十八時三十分から二十時三十分
場所 ホテルニューオータニ高岡
四階瑞竜の間
TEL 0766-26-1111

新セールの完成

この冬新たなセイル、フォアローヤルトップスルN帆が縫い上がり、三月九日(日)海王丸後部甲板にてセール完成式を行いました。完成式では、玉井文治さんからあいさつをいただき、ポランティア代表者から財団へ完成した真っ白なセイルが手渡されました。曇天に新セイルがまばゆく映り、玉井さんのお言葉にあったように、ヤードに取り付けられる日が待ち遠しく感じられました。

この日は約三十名のポランティアの皆さんで新セールの完成を祝福していただきました。セールの作成にご協力いただいた皆様ならびに完成式にご参加いただきました皆様を御礼申し上げます。

テック講座のお知らせ

①技術講座のお知らせ
四月二十七日(日)十二時三十分から操帆作業時必要となるガスケットの取扱いやギアの名前・配置などについて実地説明を行います。希望者は奮ってご参加下さい。なお、五月五日(月)にも技術講座を予定しています。

ポランティア練習会の二案内

四月二十七日(日)第一回の展帆が始まりますが、これに先立ち恒例の練習会を左記のとおり実施します。基本動作を確認し、安全に作業を進めるため、体慣らしの練習会には是非ご参加下さい。二回実施しますが、できれば四月六日(日)はセール点検のためメインマストの展帆を行います。なるべく四月六日(日)にご参加下さるようお願いいたします。

日時 一回目 四月 六日(日) 十三時から
予備日 四月十三日(日) 十三時から
場所 メインマスト付近
控室 第一研修室、第二研修室
内容

- 1300 説明
- 1330 体操、登しよう注意
- 1340 トップボード越え
- 1410 ゲルンボード越え
- 1445 休憩
- 1500 アップバーボード越え
- 1540 ロイヤル・バックシユラウド
- 1600 ギア確認、操帆作業の注意
- 1620 解散

小笠原クルーズ

59 玉井文次

小笠原クルーズには一度行きたいと考えていました。各社のクルーズ企画から仕事の都合、旅行費用及び過去の実績等から検討して年末年始の名古屋出発のフェリー「きそ」に乗船を申し込みました。

フェリーなので自動車も載せてもらえますが、今回は車で名古屋へ。シャトルバスを乗り継ぎ、フェリーターミナルにて乗船手続を済ませて船内へ。各自の部屋に落ち着き、船内見学をしながら出港を待ちました。

出港セレモニーが始まり紙テープが沢山投げられる中、船は岸壁を離れ、ベイブリッジを通過して伊勢湾へと進みました。クルーズ初日はスタック紹介があり、歌やマジックショー、カシノ等のイベントと子供天国で航海が始まりました。

次の日は1日中航海で、朝からブリッジ(航海船橋)が開放されました。午前中は船長トーク、船の説明、小笠原ツアーの話などを拝聴しました。

年末らしく、オープンデッキでは餅つきも行われました。ブリッジから三六〇度水平線を見ていると地球が球形であることを実感します。この日、伊豆諸島南端の海水ばかりの中に現れた鳥島や海上に突き出た奇岩「婦岩」の不思議な景色、その廻りを三周し、日没とも重なって、スバラシイ光景を楽しみました。

三日目の朝七時、船は父島二見湾内のブイに係留されました。朝食後弁当を受け取り、通船で大村へ上陸しました。シャトルバスで小港海岸へ直行しました。その後、中山峠を登り二見湾とは反対側のブタ海岸へ移動し、見晴らしのよい所を堪能しました。

亜熱帯植物が多く見られる亜熱帯農業センターは、見学コースが完備され興味深く楽しめます。このほか、戦争の遺物で、トーチカの跡や座礁した浜江丸の残骸が海中に横たわる海岸、ウミガメを飼育している海洋センター等も一見の価値があります。

大晦日は年越しの仮装パーティーや鏡割り、カウントダウン等で遅くまで賑わいました。年が明け、また父島へ上陸。まず大神山神社へ初詣をしてから三日月山へ登り、展望台からクジラ、イルカを見物しました。冬はクジラを見る機会が少ないそうですが、半日ホテルウオッチングを楽しみました。

いんだり、潜ったりしていました。水温は二十四度位でした。翌日、いよいよ父島と別れて名古屋への帰路につきましたが、日本海でロシアのタンカー大事故があった時と同じ時化に遭い、海は大荒れでした。船内イベントも中止、順延となり、船内の人影も疎らな状態。フェリーは下層階に荷重が懸かっている不安定な状態。このことで乗組員もこのような揺れはあまり経験したことがないと言っており、おそれ、伊良湖神通過時間当てクイズがあり、「近いで賞」を獲得しました。

夜九時過ぎに名古屋港に入港、下船が始まり皆さんと別れることになりました。私は、船が遅れたために帰りの便がなく、泊船で一泊船で泊めていただくこととなりました。次の日は天候も回復し、バス、地下鉄、汽車と乗り継いで帰宅しました。

今回の航海はいろいろな経験が、多くの人に伝え、楽しいクルーズでした。年末年始は休日でも長く仕事の心配もありません。クルーズの日程を長く取ることもできます。これから折があれば参加したいと思っています。また美しい父島の海を泳いでみたいので、暖かい季節にも訪れたいと思っています。

帆船海王丸が、富山新港北埠頭に、その後海王丸パークに繋留、一般公開されてから七年が経過、私はその間展帆ポランティアとして登録し、セールワークを楽しんできました。この七年間のポランティア活動を通じて、いろんな本を読み、いろんな話を聞いた中で学んだこと、或いは心に残ることが幾つかあったので、ここに記してみました。

特別にプロジェクトチームを組む場合などは別として、あらゆる職場等で組織としての形態は、ピラミッド型が理想と言われている。おおよそ船というものは全てそうであるらしいが、理想的な組織が確立されているという、繋留船である海王丸の場合でも、キヤプテンのもとに各マスト担当のオフィサーが、それぞれのマストオフィサーのもとには、更に二名のクルーと我々ポランティアが二十名前後配置される、そしてキヤプテンのオーダーをうけ、それぞれの立場での責任を全うし、最終目的(二十九枚の総帆を展帆すること)を成し遂げるわけである。

88 土居正輝

KAIWOMARU KAIWOMARU KAIWOMARU 船輪 KAIWOMARU KAIWOMARU KAIWOMARU

操帆には多数の人手を必要とする海王丸ではあるが、スッキリしたその職制に「組織」の原点を見るおもしろいがある。

(2) 命令、復唱として報告
 いろんな職種について、その教育の時点で口を酸っぱくして教え込まれるのが、指示命令の復唱として報告ということであるが、特に制服を着て活動する職種には、その徹底が厳しく要求される。

帆船の帆をひろげるとき、言い換えれば帆船の帆船たる機能を発揮させつつあるとき、キャブテンは後部の、船全体を見渡すことができるデッキに位置をしめオーダーを発する。

そのオーダーは後部マスト担当のオフィサーから前部マスト担当のオフィサーへと、順次口頭で復唱されて伝達されてゆく、そしてその結果についても今度は逆の順序で報告されてキャブテンはオーダーに対する結果を把握することができるとある。

「アンサーバックの徹底」、「状況の把握」これもまた職場やグループで、業務を進めていく上で極めて大切な事であろう。

(3) 登船礼と挙手の敬礼
 艦船には、登船礼、登橋礼、礼砲、艦門堵列、国旗等を半下する敬礼などの礼式があるという。

登船礼については、これは当直員以外の乗組員が甲板に整列し、士官は挙手の敬礼、それ以外のものは注目の敬礼を以て対象者に敬意を表す礼式である。海王丸の場合で言えば、全員が甲板上に整列し、キャブテンの指揮で各オフィサーは挙手の敬礼、その他の者は注目の敬礼を行う。(現在はショーアップのため、全員が挙手の敬礼をしている。)

対象者に「私たちは武器を持っていません、丸腰です、もちろん大砲の操作もしていません。」との意志を表示したのがそのルールともいわれている。

中世以前のヨーロッパの軍隊では、下級者が上級者に敬意を表すときは常に脱帽しなければならなかったという、帆船時代のイギリスやアメリカの海軍では、兵員の敬礼とは帽子を持ち上げるか、帽子の無い者は束ねた髪を掴んで会釈をするというものであり、下士官以上の者は相手に注目して自分の帽子にちよつと触るのがルールであったという。

イギリス海軍の将兵全体に挙手の敬礼が採用されたのは、一八九〇年オズボーンでの士官任命式にピクトリア女王が出席された時からだそうである、脱帽の動作が次第に簡略化され、帽子を少し持ち上げるだけになり、更には帽子の縁に手を触れるだけのスタイルになったのが、今日制服職員や船員の行う

挙手の敬礼の起源だとの説もあるという、要は対象者に対する、敬愛感謝の念をその形に表すことがポイントであろう。

(4) Learn the ropes. Know the ropes of 語源
 直訳するとロープを学ぶ、ロープを知るであるが辞書をひくと、やり方を学ぶ、方法を知っていると、コツを飲み込んでいけるとある。

海王丸のデッキ上で周囲を見回し、マストを見上げると圧倒されるように数多くのロープやワイヤー類があり、その長さを合計すれば二〇キロメートルにも及ぶという、これらのロープやワイヤー類には全て一本一本に名称と機能が有り、必要に応じて必要な結び方がなされている、合理的にそして的確にされた「結び」には、まさに「機能美」を感じる。

ところで「結び」という動作は、人間にしかできない動作だそうだが、我々が日常よく使う結索の方法にも帆船を起源とするものが多い、そしてこれらの結索方法は、スコッチウイスキーの名称でお馴染みの「カティール」や「クック」等の一九世紀の帆船クルックパルシップの上で完成されたものだそうである、コツを飲み込んだ往時のセーラー達もロープを引き、ゆるめ、そして結び、ロープを巧みに操り、気象や海象に機敏に対応し、誇らしげに水平線の彼方を眺めつつ、七つの海をわたったにちがいない。

(5) 我が職業の大先輩達
 一九世紀末から二〇世紀初めにかけて、イギリス各地で近代の消防制度の基礎が築かれたようとして、頃の消防隊員は、交替制勤務あるいは非常召集に対応する習性が身につけていること、高所での作業やロープワークに慣れていることなどから、海上生活経験者(海軍の軍人や商船乗組員)であることが第一条件であったという。

当時の消防隊員達が、人々の生命、身体、財産を守る為に、果敢に猛火猛炎に立ち向かったファイアの根源は暴風や巨浪を克服しつつケープホーンをこえたかつての帆船生活で培われたものではなかったろうか。

帆船のセーラーとしての一面を経験することも私の職業とは全く無関係ではあるまいと思ひ、ボランティアとして登録し、セーリングを楽しんでいる。

あどがき
 だんだんと暖かな日が多くなって来ると、こちらにきた頃を思い出します。広いパークで柔らかな風に触れると、何となく豊かな気分になるのです。

気づかない内に花が増え、鳥の声も聞こえるようにになりました。立山を望み、雲を眺め、遙かに富山湾を見渡すこともあつたはずが、す。あまりいい記事は書けませんでした。が、少しずつ船輪への投稿が増えてきたことを嬉しく思っています。船輪がその形通り皆さんが掴んで動かすような身近な船輪となることを切に願っています。皆さんの出逢いに感謝し、今号と同じ「Thank you!」ペンをおくことにいたします。

海王丸の体験航海についてご報告いたします。資料が財団に届いております。詳しくはお問い合わせ下さい。心算のメロは国内航海一ヶ月、遠洋航海二ヶ月制となっております。

2. 体験航海コース

(1) 国内体験航海コース

コース名	実施期間	航海区間	参加料
8泊9日コース	4月21日(月)～4月29日(火)	鹿児島港(鹿児島)～大阪港(大阪)	43,500円
4泊5日コース	5月5日(月)～5月9日(金)	大阪港(大阪)～大阪南港(大阪)	23,500円
4泊5日コース	5月13日(火)～5月17日(土)	大阪南港(大阪)～釜石港(岩手)	23,500円
4泊5日コース	10月20日(月)～10月24日(金)	釧路港(北海道)～清水港(静岡)	23,500円
4泊5日コース	10月28日(火)～11月1日(土)	清水港(静岡)～豊橋港(愛知)	23,500円
4泊5日コース	11月17日(月)～11月21日(金)	名古屋港(愛知)～門司港(福岡)	23,500円
4泊5日コース	1月27日(火)～1月31日(土)	那覇港(沖縄)～長崎港(長崎)	23,500円
5泊6日コース	2月5日(木)～2月10日(火)	長崎港(長崎)～横浜港(神奈川)	29,000円

(2) 遠洋体験航海コース

コース名	実施期間	航海区間	参加料
往航コース	6月10日(火)～7月10日(木)	東京港～バンクーバー港(カナダ)	224,000円

注：1) 天候その他の事情により、変更又は中止することがあります。

2) 国内体験航海コース：(4月21日(月)～4月29日(火)鹿児島～大阪)については Sail Osaka '97レースに参加するため、レース規定により原則として25才以下の方々の参加を募ります。

お問合せ先は次のとおりです。

財団法人 練習船教育後援会 〒102 東京都千代田区平河町2-6-4
 (海運ビル9階) 電話：03-3288-0991 FAX：03-3288-0992

